

○議長（森 弘秋君） 1番 古川元規君。

○1番（古川元規君） 実りの秋を迎えまして、稲刈り真っ盛りの中、私からは、農業に携わる者として、舟橋村の農業に関する質問を2点ほどさせていただきたいというふうに思っております。

景観や自然環境の維持を考えてましも、また舟橋村の総合計画にも記載がありますように、農業は舟橋村の基幹産業として発展していくべきであるものというふうに考えております。

先日の村長からの提案理由説明にもございましたように、村としても農業のブランディング化について動き出しておりますが、産業としての農業を確立するためには、従来からの兼業農家を中心とした施策から、専業として農業を行っていく者への施策、このような形でのバランスをとりながら、専業のほうによりシフトしていくべきではないかというふうに考えております。

農業振興の現状と今後の展望について、そのようなことを踏まえながら、当局のお考えについてお伺いさせていただければというふうに思います。

また、農業振興のために、村として取り組んでいるもの、また県や国単位で取り組んでいるものなど、さまざまな補助、また助成の制度などがあるかと思えます。しかし、村のホームページを見ましても、その情報については、詳しくは農業委員会にお聞きくださいというような形となっております、せっかくある補助・助成の制度の活用を促進する情報発信としては不十分ではないかなというふうに言わざるを得ません。

現状では情報の取得が容易とは言えず、結果として制度の活用がしにくい状態にあるのではないかというふうに思います。富山市などほかの自治体ホームページでも実際にされているように、現在活用できる補助とか助成の制度について、案内文や、また申請用紙などをデータ配信したり、またリンクを張りつけたりするということは、すぐにも取り組めることであるというふうに考えますが、そのへんについて、当局のお考えについてお伺いしたいというふうに思います。

以上となります。よろしく申し上げます。

○議長（森 弘秋君） 生活環境課長 吉田昭博君。

○生活環境課長（吉田昭博君） 1番古川議員の、補助制度等の情報発信についてのご質問に回答いたします。

議員ご指摘のとおり、本村のホームページでの農業情報は、おおむね転用や相続等の

農地法関係の手續や資金、新規就農等の内容となっており、補助金等の項目が記載されておられません。

この表記方法は近隣自治体のホームページを参考にしたものでありますが、これは国・県の補助金が多種にわたっていることから、自治体でのホームページは網羅し切れていないことが原因であります。

一方、本村ホームページから県の各課や農水省、北陸農政局へリンクすることは可能でありますので、今後、関係機関と調整して対応してまいります。

また、議員ご指摘のように、申請書等の入力が必要なデータにつきましては、ダウンロードが可能な状態にするなど対応をしてまいります。

また、現在取り組んでおりますプロジェクトにつきましても、ホームページ等に掲載をするような形をとっていきたいというふうに思います。

以上、答弁といたします。

○議長（森 弘秋君） 村長 金森勝雄君。

○村長（金森勝雄君） 1番古川議員の、本村の農業振興の方向性についてのご質問にお答えいたしたいと思っております。

国のほうで5年ごとに実施されております農林業センサスで舟橋村の状況を見ますと、平成2年の農家数177戸に対しまして、25年後の平成27年には81戸と、ほぼ半減しておるのが実態であります。そのうち49戸が、農業収入より農外収入が多い兼業農家でありますけれども、第2種兼業農家と申し上げますけれども、そういった農家が非常に増えておるということであります。

また、農地面積では現在約179ヘクタールありますが、農地の集積状況では、認定農業者、10の経営体がありますけれども、そこに58%が集積されていると。しかしながら、富山県の平均が63.3%でありますので、県平均を下回っているというのが現状であります。

一方、これまで本村の農業振興施策では、大型機械の導入に対しまして3割の補助や、農地の流動化を促進するための支援といたしまして、集積された農地に対して、新規・再設定、年数に応じまして補助する制度を実施してまいりました。

これらの補助金による支援施策は、経営の規模拡大による農業経営の安定化を図ることを目指して実施してきたところでありますけれども、しかしながら、近年、大型機械導入に係る補助にありましては、規模の拡大ではなく、機械の更新へシフトされる側面

が強くなってまいりました。また、農地の集積では、農業をリタイアする年齢までは農業を続けるという農家が多いことや、あるいはまた、受け手側の法人等にメリットが少ないということから、農地の集積が進んでいないのが現状であります。

この現状を踏まえまして、本村では、平成29年度より、農業者の自走自立化を目指すため、法人の体制強化と若手農業者の経営を支援する取り組みを実施してまいりました。平成29年度では、法人と若手農業者を対象とした専門講師による勉強会を実施し、農業全般の講義や現地視察、経営のアドバイス等を実施してまいりました。昨年度は、法人の経営強化を中心に、6次産業化の商品開発や、本村で生産される農産物を知っていただくための農産物イベントや料理教室を開催しております。

これらの取り組みの実績では、商品開発等の進展はありましたけれども、若手農業者や法人の主体的な取り組みが進まなかったという反省から、今年度新たにブランディングプロジェクトを立ち上げたのであります。

提案理由説明で申し上げたとおり、当該プロジェクトは、3カ年をかけて本村の農業・農産品のイメージやデザインを通じ、販路をつくり上げ、ブランド化を目指すものでありまして、去る7月29日に、戦略づくりを行う調査戦略部会、PRを目的とする生産・企画部会が立ち上がったところであります。

去る7月10日に開催いたしました、本村の特産品であります「舟橋村ハートかぼちゃ」の記者発表も当該事業の一端でありまして、その効果もあり、例年よりも高値で取引されたところであります。

また、ドローンによる水稻防除では、当初見込んだ面積を上回る受注面積がありまして、農家の省力化と法人経営の収入源となることが期待されているところであります。

今後とも、若手農業者や法人が自走自立していくための伴走支援を継続いたしまして、ドローンの導入をはじめICTを活用したスマート農業の進展を図るため、ソフト・ハード面を兼ねそろえた施策を検討してまいることを申し上げまして、私の答弁とさせていただきます。よろしくお願いいたします。

○議長（森 弘秋君） 古川元規君。

○1番（古川元規君） 今ほどは丁寧なご答弁、ありがとうございます。

まず、2つ目の質問のほうのご回答をいただきましたので、こちらからなんですけれども、リンクを張るのは可能かなというお話でしたが、ぜひそのように進めていただきたいと思いますが、ただ村独自でやっていること、やっているときとやっていないと

きもあるのかもしれないんですが、そのようなことに関しては、村のほうで掲載なり、またダウンロードなどできるように、ぜひよりよい形で改善していただければなというふうに思いますので、その点について、可能であれば、そのように進めたいということでご答弁いただければ大変ありがたいなというふうに思います。

また、今後の農業の方向性についてなんですけれども、今は専業農家が増えてきていると、認定農業者のほうが増えてきているということで、そこにシフトしていくという方向性をご説明いただきました。

ただ、これから農業ブランディング、進み始めたばかりかと思しますので、3カ年の計画ということで、ことしは1年目の企画段階ではありますが、実際にブランディングのために外部への発信とか、また営業のようなことを行っていく際には、いろいろと予算等が必要になってくることもあるのかなというふうに思っております。

これまでは、それこそ大型機械化だったり、効率化、スマート農業もそちらに入るのかもしれないんですけれども、そのようなことばかりに使ってこられたのかなと思うんですが、今後は、やはりブランディングということで、いわゆる農商工連携だったりとか、また無農薬、有機栽培に取り組む、そういうところへの必要な助成、補助というものが必要になってくるのかなというふうに考えております。

なぜかという、県単位、国単位のものというのは、やはり枠が非常に固定しているというか、考え方も固定しているので、慣行型の農業、今まで事例のある農業に関しての補助だったり助成というのは出やすいのですが、そうでないものに対しては非常に、本当にそんなことができるのかという目で見られることが多いというのが私、農業に携わっている者としての実感でございます。

ぜひ村としてブランディングをしていく上で、そういうところにもしっかりと目を向けて今後のバックアップをお願いできればなというふうに思いますので、その点についてのお考えなども、もしよろしければお聞かせいただければというふうに思います。

以上、再質問とさせていただきます。よろしく申し上げます。

○議長（森 弘秋君） 村長 金森勝雄君。

○村長（金森勝雄君） 今ほど古川議員から再質問がありました件にお答えしたいと思います。

今おっしゃったように、ブランディングの話なんですけど、やはり農業は今まで、どうもずっと、私自身も農家の一員でありますので、その立場から申し上げますと、農業

は成長産業という意味でなくて、自給自足的な考え方が非常に強かったと私は思うわけ
であります。

しかし、それが近年ではそうでなくて、成長産業なんだと、農業は。私も舟橋村の基
幹産業は農業だということを認識しておりますので、そういったことを進めていくな
らば、何が必要かということに当たるわけです。

それがまさしく今新たに今年度から始めるブランディングであると思っておるの
で、新しい分野で物を見つめていく、追求していく、そしてそれを目標にして進めると
いうのを、それが今の時代に合った、若い方々が継いでくれるというか、後継者になっ
ていくことにつながるんじゃないかと、このように思っております。

そういった方向性につきまして、十分私もそういった施策を盛り込んでいくというこ
とを答弁でも言いましたので、今後議会の皆さんといろいろとお話しさせていただきま
して、もう一度、本当に真に舟橋村の農業にふさわしい事業、取り組みは何かというこ
とをいろんな視点から取り上げて検討してまいりたいということを申し上げて、私から
の答弁にさせていただきたいと思います。よろしく願いいたします。